

行政視察等報告書

令和 7 年 4 月 2 日

知立市議会議長 様

会派名 篤心会
三浦美香

このことについて、下記のとおり報告します。

記

会 派 名	篤心会	
視察（研修）期間	令和 7 年 3 月 26 日～28 日	
視察（研修）場所	石川県能登地方	
参 加 者 氏 名	中野智基	永田起也
	小林昭弼	神谷定雄
	岩城道雄	兼子義信
	三浦美香	
視察（研修）項目	1.中小機構	
	2.町野町復興プロジェクト実行委員会	
	3.町野もとやスーパー	
	4.のと復耕ラボ	
	5.ヒューマンシールド神戸	
	6.輪島市社会福祉協議会	
	7.輪島市災害たすけあいセンター	
	8.輪島朝市跡	
視察（研修）経費		

※議員個人の報告書は議会事務局で公開しています。

令和 7 年 4 月 2 日

知立市議会議員 山崎りょうじ様

篤心会

三浦美香

日程:令和 7 年 3 月 26 日(水)～28 日(水)

能登アテンド:ソナエルムフクイ 代表 増田好弘 様、 田海佑吏子 様、 宮田匡暢 様

1. (独) 中小企業基盤整備機構 北陸本部

【住所】石川県金沢市広岡 3-1-1 金沢パークビル 10 階

Tel076-223-5761 (代表)

【対応】企画調整審議役 田中 幸也 様

地域・連携支援課 課長 磯部 光春 様

【日時】令和 7 年 3 月 26 日(水) 14:30～16:30

【資料】能登震災関係資料 北陸本部 20250326

【内容】 ①被害状況について

- ・東日本大震災、熊本地震との比較
- ・都道府県別地震保険加入率
- ・能登半島の地殻変動
- ・下水道本管の流下機能確保の状況
- ・道路の復旧状況(令和 6 年)
- ・奥能登(輪島市、珠洲市、穴水町、能登町)の人口の変化

②県、国、中小機構の動き

- ・2024 年 1 月からの対応
- ・中小機構の対応
- ・発災時の対応状況と課題
- ・復旧支援の状況、課題(インフラとルート確保)
- ・北陸本部の現在の取組み
- ・仮設施設整備



2. 町野復興プロジェクト実行委員会

【場所】輪島市立東陽中学校体育館

【対応】委員長 山下祐介 様

【日時】令和 7 年 3 月 27 日(木) 10:00～12:00

【内容】 ①民間ボランティアセンターを 24 年 2 月に開設 登録メンバー14 人(多 6 人,少 2 人)

②住民が笑顔になれるためのイベントを企画(4 月桜,春マルシェ,夏砂浜,野外映画)

③豪雨(9/21)による水害発生時からの民間ボランティアセンターを東陽中学校に開設(9/28)

④社教との復旧対象の違いによる意見対立(社教:住宅,ボラセン:道路,側溝など景観)

⑤災害による公共移動手段減少(タクシーなし、路線バス 3 便/日)のため、移動支援を開始

【課題】 ①被災者のニーズ管理(行政、社教、他の団体との連携)

②復旧復興の情報がない(行政からの案内が決定事項でしか届かず、現地の意見が未反映)

③民間ボラセンのため資金がない(行政からは申請書類を求められるが書式が難しい)

④被災者がボランティアの無料炊き出し(タダ)に慣れてしまった。



現地の商業を守ることもあり、25 年 4 月の桜フェスからは有償にする。

- ⑤現在隣町に移転していた小中学校が戻ってくるため、25.4.1 には体育館の明け渡しなくてはならない。この民間ボランティアセンターの行き先が決まっていない。

戻ってくる生徒は、小学生 20 人、中学生 10 人（もっと生徒はいたが震災で転出）

- ⑥民間保育園も体育館横で間借りをしているが、同じように明け渡しをしなければならないが、行き先が決まっていない。

- ⑦高齢者(65 歳以上)には震災支援が手厚いが、子育て世代には配慮が欠けた支援に不満

- ⑧25 年 4 月まちづくり協議会の立上げ

- ⑨25 年 5 月 FM ラジオの開局を目指す

【ボラセンの状況】

体育館の半分にて運営 更衣室(避難所居住用 4 貼) 食事スペース、ボランティア備品



移動トイレトラック(大阪市交野市よりレンタル提供) 屋外に設置

交野市はクラウドファンディングで購入(約 800 万円) 6 個室 給水・汚水タンク付 (刈谷市も保有)



3. 有限会社もとや庄治商店「もとやスーパー」

【場所】石川県輪島市町野町栗蔵二部 73-2

【対応】社長 本谷一知 様

【日時】令和 7 年 3 月 27 日(木) 午後

【状況】輪島市町野町で唯一のスーパーマーケット



instagram より

奥能登 2 市 2 町の真ん中 「陸の孤島」 町野町人口 2000 人

24 年 1 月 1 日 最大深度 7 この部落の倒壊件数 55/60

24 年 9 月 21 日 近隣の河川が氾濫し、濁流が店舗に流れ込む 180cm 越の浸水

【のとやスーパーHP より】(文章と写真)

想像できるだろうか

何十年も見慣れた一つの家がつぶれる姿を 昨日話した人がいなくなる寂しさを・・・

この地震は運命を否定してるかのように 能登人の世界を壊した

時が経っていく 現実が目の前に現れてくる ご飯は トイレは？ どこに寝る？

雪が降ってくる 寒い ホッカイロが欲しい 財布はがれきの下

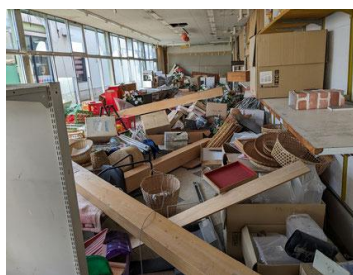
元には戻ることはない 住み慣れた風景を 目の前に だれもが理解した。

～この町唯一のスーパー～

みんなが集まってくる 顔にはアザがあり 部屋着のまま 確認しあう 状況を伝え合う

暖を取り煙草を吸う 会話は途切れぬ。

もとやスーパーが 物を売るだけの 場所ではないことを 思い知らされた。



全国から応援が来た！ 自衛隊 警察 消防 ボランティア メディア

仮設住宅が建設された 日本の中の能登を強く感じた 生きる活力を人からもらう

最後に人を救うのは 人しかないということを学んだ

～心の復興～

住むところがなくなった人たち 家族を亡くした人たち 普通の生活を約束されていない

なりわいの未来が見えない でも結局 我々能登人は人同士のやさしさを復興が始まるのだと思う

そして私たちもとやスーパーも 能登人を誇りに思うし 最後まで そんな能登人でありたい。

～濁流が店舗に～



【本谷社長の今年の目標】 うつにならないこと

昨年は暑くなり冷房もなく、心身ともに疲弊し鬱になり、病院に行く。

病院での多くの心の病の患者を目の当たり無し、「自分だけじゃないんだ」と気づき快復した。

【もとや商店の裏では】

浸水後、売り場の半分の面積で営業を再開。

店内は、ボランティアが棚を設置、ポップを作成してくれた。

残りの半分をボランティアの休憩スペースに解放。



ボランティアが好む商品も充実



ドンキ作成のポップ



こたつ完備の広い休憩所

本谷社長の話を、悲壮な顔をして聞いていたら、

「悲しそうな顔せんといってください」と社長に言われてしまいました。社長すみませんでした。

4. ヒューマンシールド神戸

【対応】代表 吉村誠司 様 (通称:助さん)

【場所】能登市 中島酒造店跡地を拠点にして活動

【日時】令和7年3月27日(木) 午後

【資料】ヒューマンシールド神戸 活動報告書 2024~2025

【状況】代表の吉村さんは技術系ボランティア(重機、エンジンカッターなどが扱える⇔一般ボランティア)

発災翌日早朝には現地に入り、救助活動を行う。

倒れて道をふさぐ電柱の切断、道路復旧、倒壊した家屋からの物資運びだしなど、機材を駆使して復旧作業が行われた。

【推奨機材】復旧作業で故障していくため、どの機種も数台必要。

ゼノア エンジン式チェーンソー ガイドバー500mm 20インチ

マサダ製作所 爪付オイルジャッキ 5TON MHC-5RS-2 (2台以上必要)

マキタ CE002GZ 355mm 充電式パワーカッター

リヤカーはがあると便利





【FNN プライムオンラインより】

付いたあだ名は「助さん」

30 年前からプロの災害ボランティアとして活動続ける吉村さん。

長野県で林業をしながら、ひとたび災害が起きると重機を乗せたトラックでいち早く現場に駆けつける。

2024 年 1 月に発生した能登半島地震では、発災翌日から自衛隊や消防と連携して人命救助や道路を塞ぐがれきの撤去などを行った。被災地のいたるところに「助さん」の活動の跡が残っている。

5. のと復耕ラボ

【場所】石川県輪島市三井町小泉漆原 14-2 古民家レストラン茅葺庵 内

【対応】副代表 尾垣吉彦 様

【日時】令和 7 年 3 月 27 日(木) 夕方

【内容】輪島市三井地区を中心に行う民間ボランティアセンターを設立し、ニーズ調査、拠点管理、ボランティア募集、現場アテンド等を実施。

【設備】ボランティアセンター機能、資機材、囲炉裏、宿泊、風呂



HP より



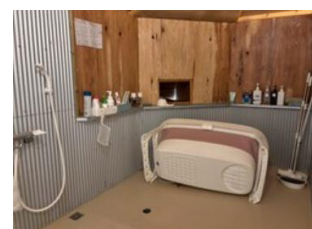
整然と資機材が並んでいる



携帯の移動基地局



断熱材 10cm
現在はこの半分の
5cm で作成可能



能登のあちこちで見かけたホイップのようなインスタントハウス。ここではお風呂として活用。

名古屋工業大学大学院 北川啓介教授と LIFULL が開発。

シンプルな工法で工場にて 3 日、分割して現地に搬入し 1 棟最短 1 時間で設置が可能、

断熱性や耐久性に優れ、さらに耐震性、耐風性もある。

6. 輪島市社会福祉協議会

【場所】石川県輪島市河井町 13 部 120 番地 1

【対応】輪島市災害たすけあいセンター副センター長 荒木正稔 様

【日時】令和 7 年 3 月 28 日(金) 9:30~10:30

【資料】令和 6 年能登半島地震および奥能登豪雨による被害状況等について

【状況】①輪島市の人口・世帯数(令和 7 年 3 月 1 日現在)

人口 20,716 人 (地震前より-2,402 人減少)(実際はもっと流出)

世帯数 10,312 世帯 (地震前より-1,405 世帯減少)

65 歳以上高齢化率 50.39% 独居高齢者が増えている。

②時系列

1/中旬 職員半分がやっと社協に集まれる状況になる

1/25 災害ボランティアセンター開設

1/26 小中学校再開

1/31 仮設住宅 18 戸完成

③地震による人的、建物被害

死者 189 名、行方不明 2 名、重軽症 516 名

建物全壊 2,306 件、半壊 3,950 件、一部損壊 4,317 件

→建物全壊と半壊は住家の 59.5%

公費解体申請は 25.5.30 受付終了、12 月までに処置を予定

地震後に困ったこと

- ・停電に伴い、温水器、テレビ、携帯基地局も停電となり携帯つながらず、情報が入らない
- ・道路の損傷が多く、渋滞し、支援に入られない。
- ・避難所での感染症(ノロ、コロナ)が発生
- ・車が家の下敷きになり、使用できず、移動手段がない。

④水害による人的、建物被害

死者 11 名、重軽症 35 名

建物全壊 68 件、半壊 563 件、一部損壊 82 件、床上浸水 34 件、床下浸水 411 件

→仮設住宅 床上浸水 199 戸、床下浸水 477 戸→年内に再入居できた

⑤仮設住宅

応急仮設住宅 地震 45 団地 2,897 戸 (地震発生から 10 ヶ月後)

豪雨 4 団地 264 戸 (豪雨から半年後)

⑥ライフライン

停電 150 戸 25.1.30 時点

断水 116 戸 25.2.25 時点

通行止め 国道中屋トンネル、県道 3 路線、市道 172 路線、橋梁 16 橋が楽橋

ため池決壊 8 か所、ため池埋没 7 か所

⑦ききとり訪問件数

みまもり支援班結成し、1 件ずつ訪問

高齢者が情報難民になっているため、正確な情報をお伝えし、支援していく

⑧ニーズ管理

25 年 5 月 30 日までにニーズ受付を終了し、少しずつ収束していかなければならない。



毎日新聞より



7. 輪島市たすけあいセンター

24 年 1 月 25 日 輪島市災害ボランティアセンター設置→輪島市災害たすけあいセンターに改名
本来なら、マニュアルに災害発生後 72H 以内に災害ボランティアセンターの立ち上げると記載があるが、職員も被災、ボランティアセンターして提携してあった場所が、自衛隊・警察・市役所に借りられてしまうなどの理由で、設置までに時間を要した。ワイプラザの駐車場を無償提供してもらう。
また、ボランティアセンターの開設は通常 6 ヶ月間だが、1 年に延長→25 年 3 月からは金・土のみ
ここからニーズ先にレンタカー(軽ワゴン)で移動 1 ヶ月のレンタカー料金は 1 千万円越え



一般ボランティア受付場所



資機材



石川県バス 県庁から輸送



トイレ

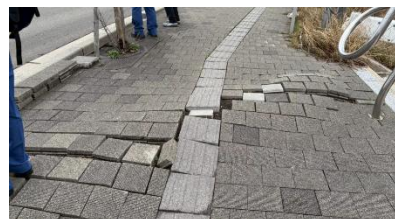
7. 輪島朝市

【状況】現在は、解体作業が進み更地になっている。焼け残った木が数本立っている。

隣接の建物は崩壊したままの状態、通路のブロックタイルはガタガタで焼け跡もそのままの状態
案内図のような朝市の面影はなにもない更地



朝市に隣接する建物はまだ解体されていない





災害たすけあいセンターのあるワイプラザの中で、
輪島市朝市組合の人たちは商売を始めた。
「輪島朝市 1400 年の歴史を守る」
ここワイプラザだけでなく、全国で出張朝市を開催中



お昼は食べて応援
石川ゴゴコーカレー



50cm ほどの段差ができて通行できず



2001 年に廃駅となり、道の駅輪島となっている

8. 視察をした方々からの提言

・「官民の連携、情報交換が必要」

災害発生で混乱するが、「復旧・復興」の方向は同じ。

お互いの言い分はあるが、官民が情報交換をしながら、連携し合うことが重要。

官民の間を取り持つ役割の人が必要

能登では、官(輪島市役所・輪島市社協)と民(町野町ボラセン)は資機材等の設置場所の取合いから始まり、運営・支援と話し合う場においても意見の相違が今も続いていました。

官民双方の方とお会いしましたが、当初はお互いの意見を理解する余裕もなかったのではないのでしょうか。わだかまりは今も残っている感じがしました。

・「災害が起こった時ではなく、災害が発生してからを想定してください」

復旧には、技術系ボランティアの力が必要です。

彼らは、重機を持参して現地に入ってくれるため、トラック・重機を置く広い場所を必要とします。

ボランティアセンターも、ボランティアの受入、更衣室、休憩所、トイレ、資機材の設置、移動用車両の駐車場など広い場所が必要です。

平穏な今のうちに、場所を提供してもらえるように複数の民間企業と提携をしておく。

本文に載せられなかった写真



のと里山海道



町野町ボラセンの隣の民家



土砂崩れが民家のすぐ裏にまで迫る



傾いている電柱(ここだけではない)



青い管は上水道と思われる。
埋設すると時間も費用もかかるため置いたまま



この砂浜は地震で最大 4m 隆起



海底にあった岩とテトラポットがむき出し



隆起した場所(元は海)に新たな道を作った
本来の道は土砂崩れで通行不可



「耐震化に取り組んでいる」とあるが看板から傾いている店舗



のと復耕ラボ駐車場のひび割れ 幅 8cm ほど



電柱の根元が液状化で沈んでいる



仮設住宅 プレハブとは思えないほどきれいなつくり



川には流木があちこちに残っている。
再度大雨が発生したら川がせき止められて氾濫しそう



トンネルの上の土砂が崩れている。
地震が起こったらトンネル内で閉じ込めになりそう



のと里山海道 隆起陥没のためアップダウン激しい
谷側の道が数か所崩落している



斜面の地滑りで山肌がむき出し



数少ない食事の提供場所でランチ



桜咲く



七尾市のコミュニティバス



がんばろう能登 がんばろう石川